



## 平成30年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年11月14日

上場会社名 株式会社Orchestra Holdings 上場取引所 東  
 コード番号 6533 URL https://orchestra-hd.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 中村 慶郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 五代儀 直美 TEL 03(5794)3743  
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月14日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年12月期第3四半期の連結業績（平成30年1月1日～平成30年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第3四半期	5,201	19.7	372	47.3	371	47.5	255	55.5
29年12月期第3四半期	4,343	22.1	253	13.5	251	15.2	164	13.7

(注) 包括利益 30年12月期第3四半期 255百万円 (55.5%) 29年12月期第3四半期 164百万円 (14.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第3四半期	30.17	26.06
29年12月期第3四半期	19.48	16.76

(注) 平成29年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合、平成30年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年12月期第3四半期	2,427	1,038	42.8
29年12月期	2,168	783	36.0

(参考) 自己資本 30年12月期第3四半期 1,038百万円 29年12月期 781百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年12月期	—	0.00	—		
30年12月期（予想）				3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

### 3. 平成30年12月期の連結業績予想（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,204	22.2	445	22.1	444	22.1	291	21.0	34.50

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 当社は、平成30年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。このため、1株当たり当期純利益は、当該株式分割が平成30年12月期の期首に行われたと仮定して算定しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

新規 一社 （社名）－

除外 一社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

30年12月期3Q	8,512,000株	29年12月期	8,458,800株
-----------	------------	---------	------------

② 期末自己株式数

30年12月期3Q	－株	29年12月期	－株
-----------	----	---------	----

③ 期中平均株式数（四半期累計）

30年12月期3Q	8,473,541株	29年12月期3Q	8,445,040株
-----------	------------	-----------	------------

(注) 当社は、平成29年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合、平成30年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して期末発行済株式数（普通株式）及び期中平均株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な原因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用環境の改善や消費者マインドの持ち直しから、回復基調を維持しておりますが、相次ぐ自然災害の発生や猛暑による影響、世界経済については米国の保護主義的な通商政策等に基づく貿易摩擦等により、その先行きに不透明感が出ております。

当社グループの主要事業領域の一つであるインターネット広告市場は、平成29年には1兆5,094億円（前年比115.2%：株式会社電通発表）と引き続き伸長しており、中でも主力サービスである運用型広告市場は9,400億円（前年比127.3%：株式会社電通発表）と大きく伸長しております。また、前第3四半期連結会計期間より新たに開始したソリューション事業を取り巻く環境といたしましては、IT人材不足が今後ますます深刻化し、2030年には約59万人程度までIT人材の不足規模が拡大するとの推計結果が出ております。（出所：経済産業省「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」）

このような環境のもと、当社グループは、デジタルマーケティング事業においては、市場成長を着実に捉え、主力サービスである運用型広告を中心に引き続き拡大を進めてまいりました。ライフテクノロジー事業においては、新規ユーザー獲得のためのプロモーション施策及び新規タイトルのリリースに注力しました。ソリューション事業においては、当社グループにおける新たな事業の柱としての確立を目指し、M&Aによる事業規模の拡大と人材採用により開発体制を更に強化し、拡大を続けるIT市場における需要の取り込みを推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は5,201,577千円（前年同期比19.7%増）、営業利益372,840千円（前年同期比47.3%増）、経常利益371,436千円（前年同期比47.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益255,674千円（前年同期比55.5%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

## ① デジタルマーケティング事業

当事業においては、インターネット広告市場が堅調に伸長する環境のもと、主力サービスである運用型広告を中心に、既存取引先からの受注額の増額や新規取引先の獲得が順調に推移し、取扱高が拡大しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は4,479,588千円（前年同期比9.7%増）、セグメント利益（営業利益）は620,571千円（前年同期比13.4%増）となりました。

## ② ライフテクノロジー事業

当事業においては、主力アプリである「チャットで話せる占いアプリウララ」、恋愛相談に特化したチャットアプリである「コイウラ」に続き、メンタルヘルス分野における相談に特化した「メンタルケアーズ」のサービスを開始し、引き続き新規ユーザー獲得のためのプロモーション施策を講じるとともに、収益拡大に向けた取組みを推進いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は281,573千円（前年同期比36.9%増）、セグメント利益（営業利益）は12,669千円（前年同期はセグメント損失1,893千円）となりました。

## ③ ソリューション事業

前第3四半期連結会計期間より新たに開始した当事業においては、事業開始以来4件のM&Aを実施し、開発体制の拡充を進めてまいりました。IT利用の多様化・高度化に伴い拡大するIT需要を取り込み、各種Webシステム開発、スマホアプリ開発、クラウドインテグレーション等の案件受注が順調に拡大しております。また、事業運営の効率化、受注案件への対応力強化等を図るため、当社子会社である株式会社あゆたが当社孫会社である株式会社エス・エス・アヴェニューとの間で吸収分割による事業統合を行うとともに、社名を株式会社Sharing Innovationsに変更しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は464,989千円（前年同期比773.2%増）、セグメント利益（営業利益）は109,480千円（前年同期比819.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比べて258,173千円増加し、2,427,030千円となりました。主な要因は、現金及び預金が186,897千円、のれんが204,258千円、投資有価証券が164,104千円増加した一方で、預け金が313,879千円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べて3,228千円増加し、1,388,765千円となりました。主な要因は、短期借入金が218,000千円増加した一方で、買掛金が137,758千円、未払消費税等が99,403千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べて254,945千円増加し、1,038,264千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が255,674千円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成30年2月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

配当予想につきましては、配当方針および現下の業績が堅調に推移していることに鑑み、平成30年12月期 期末配当予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日開示の「平成30年12月期 期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	365,024	551,922
受取手形及び売掛金	828,760	819,144
仕掛品	1,365	14,005
繰延税金資産	9,018	745
預け金	462,854	148,974
その他	122,158	132,473
流動資産合計	1,789,182	1,667,266
固定資産		
有形固定資産	29,973	26,310
無形固定資産		
のれん	136,672	340,931
その他	25,662	29,054
無形固定資産合計	162,335	369,985
投資その他の資産		
投資有価証券	107,931	272,035
その他	79,433	91,431
投資その他の資産合計	187,365	363,467
固定資産合計	379,674	759,763
資産合計	2,168,856	2,427,030
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	837,875	700,116
短期借入金	150,000	368,000
1年内返済予定の長期借入金	33,248	13,713
未払法人税等	80,773	36,558
未払消費税等	120,515	21,111
賞与引当金	7,321	16,632
その他	147,154	230,133
流動負債合計	1,376,887	1,386,265
固定負債		
長期借入金	8,649	2,500
固定負債合計	8,649	2,500
負債合計	1,385,536	1,388,765
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	183,245	183,693
資本剰余金	110,500	110,948
利益剰余金	487,950	743,622
株主資本合計	781,695	1,038,264
非支配株主持分	1,624	-
純資産合計	783,319	1,038,264
負債純資産合計	2,168,856	2,427,030

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
売上高	4,343,912	5,201,577
売上原価	3,538,760	4,121,550
売上総利益	805,152	1,080,027
販売費及び一般管理費	551,956	707,186
営業利益	253,195	372,840
営業外収益		
受取利息	3	3
還付加算金	—	278
業務受託料	50	—
その他	48	88
営業外収益合計	102	369
営業外費用		
支払利息	750	998
支払手数料	772	720
その他	—	55
営業外費用合計	1,522	1,773
経常利益	251,775	371,436
特別利益		
固定資産売却益	—	46
補助金収入	—	1,140
特別利益合計	—	1,186
特別損失		
固定資産除却損	3,969	—
事務所移転費用	6,894	—
特別損失合計	10,863	—
税金等調整前四半期純利益	240,911	372,622
法人税、住民税及び事業税	72,167	110,497
法人税等調整額	4,279	6,453
法人税等合計	76,447	116,950
四半期純利益	164,464	255,672
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△1
親会社株主に帰属する四半期純利益	164,464	255,674

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	164,464	255,672
四半期包括利益	164,464	255,672
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	164,464	255,674
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△1



## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	デジタルマーケ ティング事業	ライフテクノ ロジー事業	ソリューシ ョン事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,085,038	205,625	53,249	4,343,912	—	4,343,912
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,085,038	205,625	53,249	4,343,912	—	4,343,912
セグメント利益又は損失(△)	547,037	△1,893	11,902	557,045	△303,849	253,195

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△303,849千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年9月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	デジタルマーケ ティング事業	ライフテクノ ロジー事業	ソリューシ ョン事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,477,289	281,573	442,714	5,201,577	-	5,201,577
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,298	-	22,275	24,573	△24,573	-
計	4,479,588	281,573	464,989	5,226,151	△24,573	5,201,577
セグメント利益	620,571	12,669	109,480	742,721	△369,880	372,840

(注) 1. セグメント利益の調整額△369,880千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

第2四半期連結会計期間において、株式会社エス・エス・アヴェニューの全株式を取得し同社を連結の範囲に含めたことに伴い、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては200,848千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。